

8. きく

| 現状と課題  | 目指すべき姿   |
|--|--|
| 本県のきくは、低コスト耐候性ハウスの普及により作付面積が拡大しているが、近年、輸入や競合産地の出荷量の増減で単価が大きく変動するため、年間を通した安定出荷が求められている。 | 環境制御技術の確立を図り、年間を通した定時、定量、定質の出荷ができる産地づくり、実需者と連携した契約販売などによる安定した単価の実現 |

| 作業   | 導入する技術とその効果   | 必要経費  |  |
|------|---|---|--|
| 環境制御 |  <p>統合環境制御装置<br/>環境モニタリング機能、クラウド通信機能付き</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>本装置により、ハウス内の温・湿度やCO2濃度、日射量等の栽培環境を遠隔地でもリアルタイムで把握することができ、且つ栽培環境に適したハウス管理を自動的に実施することで、安定した高品質・高収量の確保が可能</li> <li>2L規格以上の増加効果（12月、1月、2月及び3月出荷作型の平均）<br/>従来：30,146本/10a<br/>導入後：42,873本/10a（42%増加）</li> </ul> | 本体（工事費込）<br>2,300～3,000千円<br>利用料（通信費込）<br>2.5～10千円/月 |
|      |  <p>炭酸ガス発生装置</p>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>本装置を利用した炭酸ガス施用より、冬春季寡日照期の光合成を促進させ、品質・収量向上が可能</li> <li>更に、本装置を統合環境制御装置と連動させることで、温度や日射量等に応じた炭酸ガス施用量を自動調整することが可能</li> </ul>   | 本体（工事費込）<br>300～500千円                                |
|      |  <p>簡易型送風ファンを活用した局所施用装置</p>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>炭酸ガスの局所施用装置により、炭酸ガスを施設内にてムラなく均一に施用することができ、炭酸ガス施用の効率化が可能</li> </ul>   | 本体（工事費込）<br>200～700千円                                |
|      |  <p>ドライミスト</p>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>同装置により、夏季高温期の切花品質向上が可能</li> <li>2L規格以上の増加効果（10月上旬出荷作型）<br/>従来よりも17%向上（※他県データ）</li> </ul>   | 本体（工事費込）<br>2,000～3,000千円                            |

## 9. カーネーション

| 現状と課題  | 目指すべき姿   |
|--|--|
| 本県のカーネーションは、主に10月から5月までの期間に出荷され、品質面で市場から高い評価を得ているが、近年、輸入が増加しており、本県を含む国内産の出荷量増加と品質向上が求められている。 | 環境制御技術の導入により、カーネーション栽培に最適な環境を作り上げ、暖地の産地として、輸入品に負けない品質の向上と出荷量の増加による国内を牽引する産地づくり |

| 作業   | 導入する技術とその効果   | 必要経費  |   |
|------|---|---|---|
| 環境制御 |  <p>統合環境制御装置<br/>環境モニタリング機能、クラウド通信機能付き</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>本装置により、ハウス内の温・湿度やCO2濃度、日射量等の栽培環境を遠隔地でもリアルタイムで把握することができ、且つ栽培環境に適したハウス管理を自動的に実施することで、安定した高品質・高収量の確保が可能</li> <li>単収(出荷規格4輪以上)の増加効果<br/>従 来： 90,564本/10a<br/>導入後： 117,004本/10a(29%増加)</li> </ul> | <p>本体（工事費込）<br/>2,300～3,000千円</p> <p>利用料（通信費込）<br/>2.5～10千円/月</p> |
|      |  <p>高機能遮光資材</p>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>定植直後、夏季の遮熱対策を行うことで高温障害を軽減し、秋季のスムーズな生育を促すことが可能</li> </ul>   | <p>本体（工事費込）<br/>850～1,100千円</p>                                   |
|      |  <p>炭酸ガス発生装置</p>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>本装置を利用した炭酸ガス施用より、冬春季寡日照期の光合成を促進させ、品質・収量向上が可能</li> <li>花芽分化期の炭酸ガス高濃度管理による、花飛び抑制が可能</li> <li>更に、本装置を統合環境制御装置と連動させることで、温度や日射量等に応じた炭酸ガス施用量を自動調整することが可能</li> </ul>                                | <p>本体（工事費込）<br/>300～500千円</p>                                     |
|      |  <p>局所施用装置</p>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>炭酸ガスの局所施用装置により、炭酸ガスを施設内にてムラ無く均一に施用することができ、炭酸ガス施用の効率化が可能</li> </ul>   | <p>本体（工事費込）<br/>200～700千円</p>                                     |